



大学図書館問題研究会第 29 回京都支部総会 を開催しました

日 時：2006 年 7 月 7 日（金）19:00-20:00

場 所：光琳（京都市東山区宮川筋 3 丁目 285）

参加者：12 名

【第 1 号議案】2005 年度（2005. 7～2006. 6）活動総括及び

2006 年度（2006. 7～2007. 6）活動方針

【第 2 号議案】2005 年度（2005. 7～2006. 6）決算案及び

2006 年度（2006. 7～2007. 6）予算案、会計監査報告

【第 3 号議案】2006 年度大学図書館問題研究会京都支部役員候補

支部事務局から第 1～3 号議案について提案と説明があり、質疑・検討の後、原案のとおり了承されました。なお、質疑の中で長期会費滞納者への対応についていくつかの提案が出され、以下の方針のもとに具体的な手続きについて今年度の支部委員会で詰めていくことになりました。

1. 会員継続の意思を確認することに努めるが、確認の内容・程度だけでなく、確認が難しい者に対しても、その他の方法により今後の対応を決める。
2. 会費納入の可能性があると判断された場合は、納入しやすいように、分割で納入することも認める。
3. 会費納入の督促をしているにもかかわらず、数年間会費を滞納している会員に対しては、会員を継続する意思を確かめるなどの措置を講ずる。

2006 年度は別記、「2006 年度大学図書館問題研究会京都支部役員」を中心に、「2006 年度（2006. 7～2007. 6）活動方針」及び「2006 年度（2006. 7～2007. 6）予算」に沿って支部活動を運営していきます。支部活動へのご参加と支部運営へのご協力をお願いいたします。

[目 次]

大学図書館問題研究会第 29 回京都支部総会を開催しました	…	1
2005 年度活動総括及び 2006 年度活動方針	…	2
2005 年度決算案及び 2006 年度予算案、会計監査報告	…	5
2006 年度大学図書館問題研究会京都支部役員	…	6
会費納入のお願い	…	6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm

大学図書館問題研究会第 29 回京都支部総会議案

2005 年度 (2005. 7～2006. 6) 活動総括及び 2006 年度 (2006. 7～2007. 6) 活動方針

はじめに

文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会が今年の3月23日に「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」を公表しました。大学図書館に関しては、第2章「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」において、現状と課題が分析され、今後の対応策として大学図書館の戦略的な位置付けの明確化、電子化への積極的な対応、電子化を踏まえた大学図書館の強化すべき機能、目録所在情報サービスの強化、大学図書館のサービス機能の強化、大学図書館の社会・地域との連携の推進が提示されています。ここに現在の大学図書館をめぐる主要な論点が網羅されています。報告書が最後に述べているように、大学図書館には教育研究支援という従来からの役割に加えて、「学術情報の円滑な流通や社会貢献に資する機関リポジトリによる大学からの情報発信力の強化、情報リテラシー教育などの教育サービス機能の強化」など、新たな役割を推進することが求められています。これを実現させるために「運営体制の強化に努め、多様化する利用者のニーズ等に対応していく必要がある。」と述べています。そのために高度の専門的能力を備えた図書館職員の必要性についても述べられています。

一方では図書館のビジョンや戦略を立てられる基幹業務のみを専任職員が担い、その他の専門的業務も含め実務については外部委託してゆくとといったアウトソーシングの流れが私立大学図書館を中心に拡がりつつあります。委託スタッフのモチベーションや能力、サービス水準の高さを報告している事例も散見されますが、経験を積むことで得ることのできるスキルが、委託スタッフのローテーション(入れ替わり)にともない、どのように継承されるのかなど、検討すべき課題が無くなったわけではありません。いかにモチベーションや能力が高くても、安定した職場環境が保障されなければ、「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」が求める「高度の専門性・国際性を持った大学図書館職員の確保・育成方策」など絵にかいた餅となります。

このような状況下において、現場の図書館員は、予算と人員の抑制という問題をかかえつつ、サービスの多様化、高度化を迫られています。このような時にこそ、図書館員ひとりひとりの専門的力量が問われています。

個々の図書館員の能力のレベルアップをはかるためには、雇用形態を問わず、すべての図書館員が協力し合い、情報の交換や研修の機会が継続的に提供されることが必要です。そのことが結果として利用者へのサービス向上につながることを図書館内外に積極的にアピールしていかなければなりません。また、利用者や書店・出版関係者とも積極的に交流等、幅広い人的ネットワークを育み、良好な協力関係を築いていくことが必要です。

大学図書館問題研究会京都支部では、このような状況を踏まえ、図書館員のより高度な力量形成に向けて活動を展開して来ました。

1. 2005 年度活動総括

(1) 研究交流活動

2005 年 11 月 12 日に京都ワンディセミナー「最新学術情報データベース比較の極意- Web of Science, SCOPUS, Google Scholar を中心に」を開催しました。講師としてピーター・ヤチ

ヨ (Peter Jacso)博士 (ハワイ大学 情報・コンピュータ学科 教授) をお呼びしました。参加者数は39名でした。

2006年5月20日には「大学図書館を使う! : 日本と海外」をテーマとした京都ワンディセミナーを開催しました。セミナーでは、「大学図書館をいかに使うか」にスポットを当て、図書館とそのサービスのあり方について、利用者と図書館員の視点、さらに海外と日本の視点から多面的にとらえることを目指しました。参加者数は32名でした。

第1報告として、李明剛氏 (オハイオ州立大学東アジア語学文学学科・国際交流基金フェロー) が「大学図書館での体験 - 日中米の比較 -」を、第2報告として富岡達治氏 (京都大学附属図書館)・原竹留美氏 (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館)・渡邊英理子氏 (京都大学附属図書館) の3名が「見える図書館サービス」(オーストラリアの事例紹介) を、第3報告として、辰野直子氏 (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館) が「ヨーロッパの大学図書館 - 情報リテラシー教育を中心として -」を発表された後、活発な質疑応答がありました。

セミナーの開催回数については、当初の目標を達成できました。また、内容について外部講師による講演会といった性格のものと、会員の実践発表の場といった性格のものをバランスよく実施することができました。

また、広報期間が短いものが一部あったことが反省点として挙げられます。

(2) 支部報

新しい会員から退職者まで、執筆者の幅を拓げることに努めるとともに、支部委員が積極的に執筆することを心がけました。内容も全国大会や支部総会、その他図書館関係集会等の報告・感想記事、会員の近況報告、電子図書館、ILL、大学図書館史などバラエティに富んだものにしました。編集体制の強化をはかり、紙面の充実をはかってきました。

(3) ホームページとメーリングリスト

支部委員会報告や行事の案内などコンスタントに情報を会員に提供するように努めてきました。速報的なものはメーリングリスト、より詳しくまとめたものはホームページというふうに使分けすることによって効果的な広報を心がけてきました。

ホームページは、リニューアルを行いました。メールマガジンは3号から10号まで発信しました。前年度からの課題であった定期配信をほぼ実現できました。

(4) 組織活動

会員数は81名 (2005年6月現在) から74名 (2006年5月現在) と7名減少しました。会員数変動の内訳は入会者1名、他支部からの転入者2名、退会者10名です。

新規会員の獲得については、あらゆる機会をとらえ、積極的に勧誘を努めてきましたが、引き続き、組織的な取り組みが必要です。

(5) 財政活動

財政活動については、支部委員会として毎月状況を把握するとともに、積極的な会費納入の働きかけを行っているところです。

また、前年度に引き続いて財政・組織を3名で担当する体制を維持し、会費納入率の向上に努めています。

2. 2006 年度活動方針

(1) 研究交流活動

会員のニーズに応えた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成に役立てるため、セミナーを2回以上開催します。また会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行、ホームページの充実、メールマガジンの発行など、一層の努力をします。積極的に会員間の交流の機会をつくることに努めます。

(2) 支部報

定期発行（月刊）に努めます。

会員の多様なニーズに応え、各人のスキルアップに貢献できる内容になるよう努力します。読みやすい紙面づくりを心がけます。

できるだけ多くの人に執筆していただけるよう努力します。

(3) ホームページとメーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすく提供するために、ホームページの内容を充実します。また、会員の親睦と交流を盛んにするためにホームページに会員のページを設けるとともに、メーリングリストを効果的に活用できるよう支部会員の8割以上にメールアドレスを登録してもらえるように努めます。

また会員に対して、支部の活動状況を迅速にお知らせする媒体として、メールマガジンの内容を充実するように努めます。

(4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。例えば、セミナーなどあらゆる機会をとらえ、入会の勧誘に努めます。

そのために魅力ある企画を立てるように努力します。

(5) 財政活動

個々の会員への個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を今年度も引き続いて行い会費納入率の向上に努めます。

財政活動を一層前進させるため、支部委員会において、毎回担当者から報告と提案を受け、全員で取り組みます。

また、個々の会員にあらゆる機会をとらえ積極的・直接的に声をかけ、会費納入を働きかけます。

2005 年度決算 (2005.7~2006.6) 及び 2006 年度予算 (2006.7~2007.6)

2005 年度決算(2005.7~2006.6)

総収入	総支出	差引残高
420,492	184,795	235,697

■収入の部

項目	予算	決算	差引額	備考
前年度繰越金	173,482	173,482	0	
2006 年度会費	0	12,500	-12,500	5 名(@2,500)
2005 年度会費	185,000	115,000	70,000	46 名(@2,500 円)
2004 年度会費		60,000		24 名(@2,500 円)
2003 年度会費	222,500	30,000	120,000	12 名(@2,500 円)
2002 年度会費		12,500		5 名(@2,500 円)
支部報 購読会員	2000	10,000	-8,000	1 名(2009 年度分まで前払い/@2,000 円)
寄附金	0	7,000	-7,000	
口座利子	0	10	-10	
合計	582,982	420,492	162,490	

■支出の部

会報	120,000	109,505	10,495	印刷(48,585 円)/送料(60,920 円)
研究交流会費	150,000	39,000	111,000	11 月セミナー(0 円) 5 月ワンディセミナー(39,000 円)
全国委員会参加補助費	30,000	0	30,000	参加者から受取辞退により交付せず
事務費	12,000	11,240	760	
HP 維持費	22,000	22,000	0	
特別事業基金	200,000	0	200,000	
予備費	48,982	3,050	45,932	総会案内(3,050 円)
合計	582,982	184,795	398,187	

2006 年度予算(2006.7~2007.6)

□収入の部

項目	予算	備考
前年度繰越金	235,697	特別事業基金(200,000 円を含む)
2006 年度会費	162,500	65 名*2,500 円
未納会費	152,500	2005 年度:22 名*2,500 円 2004 年度:19 名*2,500 円 2003 年度:12 名*2,500 円 2002 年度:8 名*2,500 円
支部報 購読会費	0	1 名(2009 年まで前納済)
合計	550,697	

□支出の部

会報	120,000	印刷費(70,000 円)/送料(50,000 円)
研究交流会費	150,000	
支部委員活動費	30,000	
全国委員会参加補助費	30,000	
事務費	12,000	
HP 維持費	22,000	
予備費	186,697	
合計	550,697	

会計監査報告

2005 年度大学図書館問題研究会京都支部会計監査報告

帳簿および現金は適正に保管・記載されていた。

2006 年 7 月 1 日

福井京子 (印略)

大橋亜紀子 (印略)

2006 年度大学図書館問題研究会京都支部役員

支部委員 (50 音順)

- 赤澤 久弥 (滋賀医科大学附属図書館)
- 池田 貴儀 (日本原子力研究開発機構 研究技術情報部 情報メディア管理課)
- 大館 和郎 (京都学園大学教務課)
- 大綱 浩一 (京都大学附属図書館)
- 坂本 拓 (京都大学文学研究科図書館)
- 進藤 達郎 (滋賀大学附属図書館 教育学部分館)
- 辰野 直子 (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館)
- 呑海 沙織 (奈良女子大学附属図書館)
- 若松 克尚 (京都造形芸術大学芸術文化情報センター)
- 渡邊 伸彦 (京都大学文学研究科図書館)

監査委員

- 井上 敏宏 (奈良先端科学技術大学院大学附属図書館)
- 大橋亜紀子 (豊田工業高等専門学校図書館)

全国委員

- 大綱 浩一 (京都大学附属図書館)

◇ 会費納入のお願い ◇

大図研の活動は会員の皆様からの会費によって支えられていますが、現在、大図研の財政状態は危機的状況にあります。大図研会費 (¥5,000/年) および京都支部会費 (¥2,000/年) の納入については再三お願いしてきたところですが、2006 年度 (2006.7~2007.6) が始まりましたので、2006 年度会費納入をお願いします。また 2005 年度以前の会費を納入していただいている会員の皆様におかれましては、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願いいたします。詳しくは同封しております会費納入状況通知書および振込用紙をご覧ください。

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) または支部委員 (組織・財政担当) の大綱浩一

までお問い合わせください。